



Is. Ceramics ART.

# ゲンダイトウゲイ

Contemporary ceramic art “mini” chronicle

## \*ミニ\*クロニクル

林康夫 《See through 90-2》1990 年



増田敏也 《Low pixel CG 「ボーナスポイント (パイナップル)」》 2019 年

**2026.9.19(土)→11.23(月祝)**

土を焼き固めるという意味では、長い歴史を持つやきもの。けれども、自由なかたちを得て、現代アートと同様に多種多様な表現が生まれたのは、じつは戦後から。まだまだ新しいものなのです。その名も「現代陶芸（ゲンダイトウゲイ）」。本展では、特にうつわではない、いわゆる立体作品に注目し、当館の現代陶芸コレクションの中から、各時代を代表する作家の作品を抽出し、緩やかな年代順でご紹介します。「クロニクル」には、「年代順に記録する」というほかにも、「壮大な物語」というような意味もあります。すべての時代を詳細に追うことは叶いませんが、展示を見進めていくうちに、それぞれの時代の潮流や熱気から、陶芸表現の広がりやダイナミズムを体感いただけるのではないのでしょうか。

本展ではまず、現代陶芸のパイオニア世代のレジェンド・林康夫（1928- ）の作品に焦点を当てます。林の作品をクロニクルに振り返ること＝現代陶芸の歴史を知る、と言っても過言ではありません。林は1947年に前衛的な陶芸制作を目指して京都で結成された「四耕会」に19歳で創設メンバーとして参加し、「芸術への希求をやきもので挑んだ」気鋭の作家。98歳となった今でも、制作への熱い思いを絶やすことはありません。

次に、1948年に結成された「走泥社」の創設メンバーの八木一夫（1918-1979）、山田光（1923-2001）、鈴木治（1926-2001）らの作品をはじめ、同時代のアートの動向と共振しながら生まれていった、各時代の様々な陶芸表現を取り上げます。とりわけ作品の大型化やインスタレーション化が進み、現代アートの一領域として陶芸が注目を集めた1980年代から1990年代に活躍した作家たちの大型作品や、2000年代以降、拡張し続ける陶芸表現の革新を担った新世代の作家たちのユニークな作品にも注目し、豊かな展開をし続ける「ゲンダイトウゲイ」の魅力を探ります。本展を通じて、「やきものはアートだ！」と感じていただければ幸いです。

## 出品作家

辻晉堂／八木一夫／熊倉順吉／荒木高子／山田光／鈴木治／林康夫／坪井明日香／  
三島喜美代／辻勘之／森野泰明／柳原睦夫／中村錦平／三代宮永東山／佐藤敏／笹山忠保／  
三輪龍氣生（十二代三輪休雪）／星野暁／西村陽平／深見陶冶／松本ヒデオ／秋山陽／  
八代清水六兵衛／重松あゆみ／田嶋悦子／加藤委／日野田崇／安藤郁子／稲崎栄利子／  
林茂樹／竹内紘三／西田潤／増田敏也／秋永邦洋／金理有／出和絵理／木野智史／岩村遠／  
田中悠／橋本知成（生年・五十音順、敬称略）

1



2



3



4



5



6



7



8



9



- |                                    |                                       |
|------------------------------------|---------------------------------------|
| 1 八木一夫 《貌》 1977 年                  | 6 重松あゆみ 《骨の耳 93-02》 1993 年 撮影：後藤 清    |
| 2 鈴木治 《傾けた顔》 1979 年                | 7 竹内紘三 《Modern Remains Rising》 2017 年 |
| 3 坪井明日香 《唐織追想（惜別の東山）》 1990 年       | 8 西田潤 《絶 No.10-a》 2001 年              |
| 4 三島喜美代 《Paper Bag シリーズ》 1973-80 年 | 9 田中悠 《subsemitone》 2022 年            |
| 5 八代清水六兵衛 《Relation 96-A》 1996 年   |                                       |

## 展覧会の見どころ

- 1) 現代陶芸のパイオニアの一人で、98歳となった現在も、現役を貫くレジェンド・林康夫（1928- ）の作陶の軌跡を、1940年代の初期作から2025年制作の最新作まで、40点余りの作品で展覧します。林は1947年、前衛陶芸を掲げ、京都で結成された「四耕会」の創設メンバー。未知なる「陶のオブジェ」を創造し続けた、林のユニークで力強い作品群を纏めて見ることでできる大変貴重な機会となります。
- 2) 1950年代半ばから陶彫に取り組む彫刻家の辻晉堂（1910-1981）、1948年に京都で結成された「走泥社」の創設メンバーである八木一夫（1918-1979）、山田光（1923-2001）、鈴木治（1926-2001）、そして、同人として加わった作家たちなど、現代陶芸の黎明期を盛り立てた重要な作家たちの作品も大集合します。
- 3) 同時代の美術の動向と共振しながら、大型化・インスタレーション化した1980年代から1990年代、若手作家が台頭し、拡張し続ける陶芸表現を切り拓いていった2000年代以降の作品も見どころ満載です。特に2000年から数々の公募展で受賞を重ね、2005年に27歳の若さで亡くなった西田潤（1977-2005）の代表作《絶 No.10-a,b》（2001年）を10年ぶりに展示します。今なお、語り継がれるもう一人のレジェンドにもご注目ください。

## 展覧会概要

会 期：2026年9月19日（土）～11月23日（月・祝）

休 館 日：月曜日（ただし、9月21日（月・祝）、10月12日（月・祝）、11月23日（月・祝）は開館し、9月24日（木）、10月13日（火）は休館）

開館時間：10:00～17:00 ※入館は閉館時間の30分前まで

観 覧 料：一般1,300円（1,000円）、大学生1,000円（800円）、高校生以下無料

・（ ）内は20名以上の団体割引料金です。

・70歳以上の方は半額になります。

・障がいのある方は75%割引、その介助者1名は無料になります。

会 場：兵庫陶芸美術館 展示棟 展示室1・2・4・5

主 催：兵庫陶芸美術館、神戸新聞社

後 援：兵庫県、兵庫県教育委員会

協 力：丹波立杭陶磁器協同組合

## 関連イベント

## ◆出品作家によるリレー・トーク

八代清水六兵衛氏／田嶋悦子氏／竹内紘三氏／田中悠氏

日 時：9月19日（土）11:00～

場 所：当館展示棟 展示室1・2

※事前申込不要、観覧券が必要

## ◆2026年度作家招聘事業交流イベント

現代の象徴である「デジタル」をテーマにユニークな陶芸作品を制作する作家・増田敏也氏をお招きし、トークイベント（二部構成）を行います。

日 時：10月3日（土）

## ① 増田敏也氏によるスライドレクチャー

11:00～12:00 当館研修棟1階 セミナー室

※事前申込制（定員100名、先着順）、観覧券の半券が必要

## ② クロストーク 増田敏也氏×奥村泰彦（当館館長）

13:30～14:30 当館展示棟1階 展示室2

※事前申込不要、観覧券が必要

## ◆ワークショップ

「過去」と「未来」～小さな立体作品を作ろう～

2種類の土、それぞれの性質からヒントを得て、「過去」と「未来」というテーマに合わせて、小さな立体作品を制作します。

日 時：11月8日（日） 10:00～15:00（予定）

場 所：当館エントランス棟1F 工房

定 員：20名（有料、事前申込制、応募多数の場合は抽選）

## ◆当館学芸員によるギャラリー・トーク

日 時：2026年9月26日（土）、10月31日（土）、11月22日（日）

いずれも11:00～1時間程度（観覧券が必要）

※各イベントに関する詳細は当館ホームページでご確認ください。

## お知らせ

## ◆同時開催のテーマ展

「丹波焼の世界 Season 10」

開催中～2026 年 11 月 23 日（月・祝）

## ◆次回特別展

「おいしいやきものー酒と醤油と料理のうつわー」

2027 年 3 月下旬（予定）～6 月 6 日（日）

## 交通のご案内

[公共交通機関をご利用の場合]

- ・ JR 福知山線「相野駅」下車後（大阪駅から約 50 分）駅前からウイング神姫（路線バス）「兵庫陶芸美術館」「こんだ薬師温泉」または「清水寺」行き乗車約 15 分、「兵庫陶芸美術館」下車

※相野駅発バス時刻 9:33、10:15、13:10、15:45

土・日・祝は 10:47、11:36、13:41 が増便（2026 年 7 月現在）

[自動車をご利用の場合]

- ・ 舞鶴若狭自動車道・三田西 I C から約 15 分、または丹南篠山口 I C から約 20 分
- ・ 中国自動車道・滝野社 I C から国道 372 号を東へ約 30 分
- ・ 阪神方面から国道 176 号を北上し、三田市四ツ辻信号を左折約 15 分
- ・ 駐車場無料、大型可



## 【本展に関するお問合せ】

兵庫陶芸美術館

広報担当：企画・事業課 岡田 智恵（おかだ ちえ）

E-mail：Chie\_Okada@pref.hyogo.lg.jp

展覧会担当：学芸課 マルテル坂本 牧子（マルテルサカモト マキコ）

E-mail：Makiko\_Sakamoto@pref.hyogo.lg.jp

〒669-2135 兵庫県丹波篠山市今田町上立杭 4

TEL：079-597-3961（代表）

FAX：079-597-3967

ホームページ：<https://www.mcart.jp>

# 特別展 ゲンダイトウゲイ＊ミニ＊クロニクルーやきものはアートだ！

2026年9月19日（土）～11月23日（月・祝）

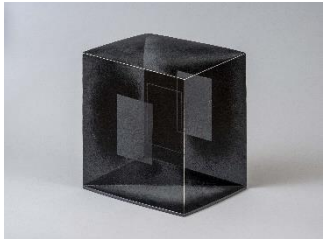
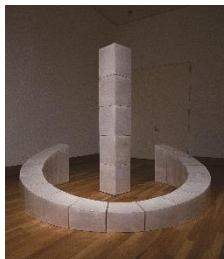
## 広報画像申込書

送信先 E-mail: [togei@pref.hyogo.lg.jp](mailto:togei@pref.hyogo.lg.jp) Fax:079-597-3967

兵庫陶芸美術館 企画・事業課 広報担当宛

ご希望の画像番号にチェックを入れ、以下の項目をご記入の上、メールもしくはFAXでお送りください。

※読者プレゼント招待券は、写真を掲載し本展をご紹介いただける場合に限り（最大5組10名まで）。

|                                                                                                                                          |                                                                                                                            |                                                                                                                                                        |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>□1</p>  <p>林康夫 《See through 90-2》<br/>1990 年</p>     | <p>□2</p>  <p>八木一夫 《貌》 1977 年</p>         | <p>□3</p>  <p>八代清水六兵衛 《Relation 96-A》<br/>1996 年</p>                |
| <p>□4</p>  <p>三島喜美代 《Paper Bag シリーズ》<br/>1973-80 年</p> | <p>□5</p>  <p>西田潤 《絶 No.10-a》 2001 年</p> | <p>□6</p>  <p>増田敏也 《Low pixel CG「ポーナスポイント（パイナップル）」》<br/>2019 年</p> |

### 【画像使用に際しての注意事項】

- ◆本展覧会の広報用としての使用に限ります。
- ◆画像の掲載には、各作品のキャプションを明記してください。
- ◆画像の加工（作品の切り抜き、着色、文字載せ等）はご遠慮ください。
- ◆基本情報、画像使用の確認のため、ゲラ・原稿の段階で「企画・事業課」までお送りくださいますようお願いいたします。
- ◆ご掲載媒体、もしくはURLを「企画・事業課」までご送付いただきますようお願いいたします。

貴社名：

媒体名：

所在地：〒

媒体種別： 新聞・雑誌・フリーペーパー・テレビ

ラジオ・WEB・その他（ ）

担当者名：

掲載予定日：

E-mail アドレス：

参考 URL：

TEL：

FAX：

読者プレゼント招待券：

組

名分

プレゼントの受付・発送などは貴編集部にてお願いいたします。